

地歴公民

1年	地理総合
1年	歴史総合
2年	世界史探究
2年	日本史探究
2年	公共
3年	世界史探究
3年	世界史演習
3年	日本史探究
3年	日本史演習
3年	政治・経済
3年	政治・経済演習
3年	地歴探究
3年	公民探究

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		地歴	地理総合	必修	2単位	折井 千裕
教科書	山川「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」 山川「詳解現代地図 最新版」		副教材	帝国書院「図説地理資料 世界の諸地域NOW 2026」		
授業のねらい	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いていきます。生活文化の多様性を理解することと、地球規模での課題を理解し、主体的に行動することのできる資質を身につけていきます。					
学習上の留意点	世界各国の位置を世界地図上で確認するため、地図帳を活用します。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・中学校社会の復習		・学習内容の理解。日ごろのさまざまな事象に地理的な視点を加える。 ・中学校社会の理解を確認する ・提出物(プリント・課題) ・小テスト		
	期末	・球面上の世界		・学習内容の理解。日ごろのさまざまな事象に地理的な視点を加える。 ・地理と政治・経済の結びつきを探究する ・提出物(プリント・課題) ・小テスト		
2 学 期	中間	・地形		同上		
	期末	・世界の気候		同上		
3 学 期	学年末	・自然災害と防災 ・持続可能な地域づくり		・1、2学期の学習内容の総括として考えや意見をもつ ・発表の場を通して自己・他者と向き合う		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		地歴	地理総合	必修	2単位	兼平 翔太郎 富岡 駿 折井 千裕 小泉 健
教科書	山川「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」 山川「詳解現代地図 最新版」		副教材	帝国書院「図説地理資料 世界の諸地域NOW 2026」		
授業のねらい	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いていきます。生活文化の多様性を理解することと、地球規模での課題を理解し、主体的に行動することのできる資質を身につけていきます。					
学習上の留意点	世界各国の位置を世界地図上で確認をするため、地図帳を活用します。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・中学校社会の復習		・学習内容の理解。日ごろのさまざまな事象に地理的な視点を加える。 ・中学校社会の理解を確認する ・提出物(プリント・課題) ・小テスト		
	期末	・球面上の世界		・学習内容の理解。日ごろのさまざまな事象に地理的な視点を加える。 ・地理と政治・経済の結びつきを探究する ・提出物(プリント・課題) ・小テスト		
2 学 期	中間	・地形		同上		
	期末	・世界の気候		同上		
3 学 期	学年末	・自然災害と防災 ・持続可能な地域づくり		・1、2学期の学習内容の総括として考えや意見をもつ ・発表の場を通して自己・他者と向き合う		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		地歴	歴史総合	必修	2単位	福島 琢
教科書	山川出版社「わたしたちの歴史 日本から世界へ」		副教材	山川出版社「わたしたちの歴史 日本から世界へノート」		
授業のねらい	資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得することを目指します。近現代のアジア諸国と欧米諸国との関係などを多角的に考察し、表現する力を身につけることを目指します。					
学習上の留意点	世界各国の位置を世界地図上で確認するため、地図帳を活用します。宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末考査を、2学期は中間考査と期末考査を、3学期は学年末考査を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期		・中学校社会の復習		・学習内容の理解 ・中学校社会の理解を確認する ・提出物(プリント・課題等) ・小テスト		
	期末	・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・明治維新と日本の立憲体制		・学習内容の理解。 ・歴史的な事象と現代の事象とを結びつける視点を持つ。 ・提出物(プリント・課題等) ・小テスト		
2 学 期	中間	・帝国主義の展開とアジア ・第一次世界大戦と大衆社会		同上		
	期末	・経済危機と第二次世界大戦		同上		
3 学 期	学年末	・戦後の国際秩序と日本の改革 ・冷戦の展開と終結		・1、2学期の学習内容の総括として考えや意見をもつ ・発表の場を通して自己・他者と向き合う		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		地歴	歴史総合	必修	2単位	鴫川 大也 大隈 正平 柳澤 駿介 鯉沼 雅子
教科書	山川出版社「わたしたちの歴史 日本から世界へ」		副教材	山川出版社「わたしたちの歴史 日本から世界へノート」		
授業のねらい	資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得することを目指します。 近現代のアジア諸国と欧米諸国との関係などを多角的に考察し、表現する力を身につけることを目指します。					
学習上の留意点	世界各国の位置を世界地図上で確認をするため、地図帳を活用します。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末考査を、2学期は中間考査と期末考査を、3学期は学年末考査を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期		・中学校社会の復習		・学習内容の理解 ・中学校社会の理解を確認する ・提出物(プリント・課題等) ・小テスト		
	期末	・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・明治維新と日本の立憲体制		・学習内容の理解。 ・歴史的な事象と現代の事象とを結びつける視点を持つ。 ・提出物(プリント・課題等) ・小テスト		
2 学 期	中間	・帝国主義の展開とアジア ・第一次世界大戦と大衆社会		同上		
	期末	・経済危機と第二次世界大戦		同上		
3 学 期	学年末	・戦後の国際秩序と日本の改革 ・冷戦の展開と終結		・1、2学期の学習内容の総括として考えや意見をもつ ・発表の場を通して自己・他者と向き合う		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(文系)		地歴	世界史探究	必修選択	2単位	福島 琢
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	第一学習社「グローバルワイド」 山川「世界史用語集 改訂版」 山川「詳説世界史ノート」 東進「世界史 一問一答」		
授業のねらい	多様な国際情勢が見られる現代において、歴史分野を探究し自国の民族や他者への理解を深めることが重視されています。そのような中で、世界の歴史をテーマに探究し、相互理解を深めていく力を養います。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・古代オリエント文明とその周辺 ・イラン諸国家の興亡とイラン文明		・オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。		
	期末	・ギリシア人の都市国家 ・ローマと地中海支配		・ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ・民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ・諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ・ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ・「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ・ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。		
2 学 期	中間	・中国の古代文明 ・ヨーロッパ世界の形成		・殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・春秋時代と戦国時代を比較し、それぞれの秩序について違いを見出す。 ・戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ・ビザンツ帝国の繁栄について理解する。 ・ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。		
	期末	・西ヨーロッパの封建社会とその展開 ・東ヨーロッパ世界の展開		・中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ・十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。 ・スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。		
3 学 期	学年末	・西ヨーロッパ世界の変容		・封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ・各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ・百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ・スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ・神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		地歴	世界史探究	必修選択	2単位	柳澤 駿介 福島 琢
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	第一学習社「グローバルワイド」 山川「詳説世界史ノート」 山川「詳説世界史 10分間テスト」		
授業のねらい	多様な国際情勢が見られる現代において、歴史分野を探究し自国の民族や他者への理解を深めることが重視されています。そのような中で、世界の歴史をテーマに探究し、相互理解を深めていく力を養います。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・地理総合、歴史総合分野の復習		・世界の主要都市の場所を正確につかむことができるか。 ・世界の主要地域の気候や地形を理解できるか。 ・近代の日本と世界のつながりについて復習できるか。		
	期末	・古代オリエント文明とその周辺 ・イラン諸国家の興亡とイラン文明		・オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ・バルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。		
2 学 期	中間	・ギリシア人の都市国家 ・ローマと地中海支配		・ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ・民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ・諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ・ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ・「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ・ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。		
	期末	・中国の古代文明 ・ヨーロッパ世界の形成		・殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・春秋時代と戦国時代を比較し、それぞれの秩序について違いを見出す。 ・戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ・ビザンツ帝国の繁栄について理解する。 ・ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。		
3 学 期	学年末	・西ヨーロッパの封建社会とその展開		・中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ・十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ・中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(文系)		地歴	日本史探究	必修選択	2単位	大隈 正平
教科書	山川「詳説 日本史探究」		副教材等	東進「日本史一問一答完全版 3rd edition」 高校日本史基本用語問題集 ツインズ・マスター 浜島「新詳日本史」 実教出版「詳述日本史史料集」 山川「日本史用語集」		
授業のねらい	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第2章 歴史資料と先史・古代の展望		・学習内容の理解 ・日本における歴史的事象と世界との繋がりについての理解を深める ・提出物(プリント・課題等) ・プレゼンテーションによる相互理解		
	期末	第3章 古代社会の形成と展開		同上		
2 学 期	中間	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望		同上		
	期末	第3章 中世社会の展開		同上		
3 学 期	学年末	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望		同上		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		地歴	日本史探究	必修選択	2単位	大隈 正平 富岡 駿
教科書	山川「詳説 日本史探究」		副教材等	浜島「新詳日本史」 山川「詳説日本史ノート」		
授業のねらい	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験を、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第2章 歴史資料と先史・古代の展望		・学習内容の理解 ・日本における歴史的事象と世界との繋がりについての理解を深める ・提出物(プリント・課題等) ・プレゼンテーションによる相互理解		
	期末	第3章 古代社会の形成と展開		同上		
2 学 期	中間	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望		同上		
	期末	第3章 中世社会の展開		同上		
3 学 期	学年末	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望		同上		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス		公民	公共	必修	2単位	磯部 菜々
教科書	第一学習社 『高等学校 新公共』		副教材等	第一学習社 『最新公共資料集2026』		
授業のねらい	社会に参画する自立した主体者となることを目指します。政治参加と公正な世論の形成、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について考察する機会をつくっていきます。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・法的な主体となる私たち ・政治的な主体となる私たち 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解 ・公共的な枠組みの理解 		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国家主権 ・日本の安全保障と防衛 		<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(プリント・課題) ・小テスト 		
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障と防衛(つづき) ・経済的な主体となる私たち 		同上		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の機能と限界 ・金融のはたらき 財政の役割と社会保障 		同上		
3 学 期	学年末	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間をつくる私たち ・社会に参画する自立した主体として生きる 		同上		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス		公民	公共	必修	2単位	長原 亮 倉持 満 磯部 菜 橋本 優音
教科書	第一学習社 『高等学校 新公共』		副教材等	第一学習社 『最新公共資料集2026』		
授業のねらい	社会に参画する自立した主体者となることを目指します。政治参加と公正な世論の形成、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について考察する機会をつくっていきます。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は期末試験、2学期は中間試験と期末試験を、3学期は学年末試験を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・法的な主体となる私たち ・政治的な主体となる私たち 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解 ・公共的な枠組みの理解 		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国家主権 ・日本の安全保障と防衛 		<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(プリント・課題) ・小テスト 		
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障と防衛(つづき) ・経済的な主体となる私たち 		同上		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の機能と限界 ・金融のはたらき 財政の役割と社会保障 		同上		
3 学 期	学年末	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間をつくる私たち ・社会に参画する自立した主体として生きる 		同上		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースIクラス		地歴	世界史探究	必修選択	4単位	小泉 健
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	山川「世界史総合テスト」 第一学習社「グローバルワイド」 山川「世界史用語集 改訂版」 山川「一問一答 世界史」		
授業のねらい	歴史事象の理解を基礎にして、学習者自身が考え、意見をまとめ、さらにそれが学習者の主張や行動、生き方にまでつながるような授業を目指していきます。同時に大学受験にも対応できるよう配慮していきます。					
学習上の留意点	・教材は必ず一式持参してください。 ・定期的に課題を課します。					
評価方法	1学期は中間試験、期末試験を、2学期は期末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・ヨーロッパ世界の成立と変容		・学習内容の理解 ・歴史的な事象と現代の国際関係とを結びつける視点を養う ・提出物(プリント・課題等)		
	期末	・大交易時代、宗教改革 ・近代のヨーロッパ		同上		
2 学 期	中間	・市民革命 ・19世紀の西欧諸国		同上		
	期末	・帝国主義 ・アフリカ分割 ・第一次世界大戦以後の歴史		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(文系)		地歴	世界史探究	必修選択	4単位	兼平 翔太郎
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	山川「世界史総合テスト」 第一学習社「グローバルワイド」 山川「世界史用語集 改訂版」 山川「一問一答 世界史」		
授業のねらい	歴史事象の理解を基礎にして、学習者自身が考え、意見をまとめ、さらにそれが学習者の主張や行動、生き方にまでつながるような授業を目指していきます。同時に大学受験にも対応できるよう配慮していきます。					
学習上の留意点	定期的に課題を課します。授業時間内だけでなく、各講習でも授業を進めますので必ず参加して下さい。					
評価方法	1学期は中間試験、期末試験を、2学期は期末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・大交易時代、宗教改革 ・近代のヨーロッパ 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解 ・歴史的な事象と現代の国際関係とを結びつける視点を養う ・提出物(プリント・課題等) 		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命 ・19世紀の西欧諸国 		同上		
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義 ・アフリカ分割 ・第一次世界大戦以後の歴史 		同上		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の世界 ・21世紀の歴史 		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(文系)		地歴	世界史探究	必修選択	4単位	福島 琢 兼平 翔太郎 橋本 優音
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	第一学習社「グローバルワイド」 山川「詳説世界史ノート」 山川「詳説世界史 10分間テスト」		
授業のねらい	歴史事象の理解を基礎にして、学習者自身が考え、意見をまとめ、さらにそれが学習者の主張や行動、生き方にまでつながるような授業を目指していきます。同時に大学受験にも対応できるよう配慮していきます。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は必ず一式持参してください。 ・定期的に課題を課します。 					
評価方法	1学期は中間試験、期末試験を、2学期は期末試験を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・ヨーロッパ世界の成立と変容		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解 ・歴史的な事象と現代の国際関係とを結びつける視点を養う ・提出物(プリント・課題等) 		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・大交易時代、宗教改革 ・近代のヨーロッパ 		同上		
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命 ・19世紀の西欧諸国 		同上		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義 ・アフリカ分割 ・第一次世界大戦以後の歴史 		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コース1クラス		地歴	世界史演習	必修選択	2単位	小泉 健
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	山川「世界史総合テスト」 第一学習社「グローバルワイド」 山川「世界史用語集 改訂版」 山川「一問一答 世界史」		
授業のねらい	歴史事象の理解を基礎にして、学習者自身が考え、意見をまとめ、さらにそれが学習者の主張や行動、生き方にまでつながるような授業を目指していきます。同時に大学受験にも対応できるよう配慮していきます。					
学習上の留意点	・教材は必ず一式持参してください。 ・定期的に課題を課します。					
評価方法	課題の提出状況、小テストを実施し評価を決定します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・ヨーロッパ世界の成立と変容		・学習内容の理解 ・歴史的な事象と現代の国際関係とを結びつける視点を養う ・提出物(プリント・課題等)		
	期末	・大交易時代、宗教改革 ・近代のヨーロッパ		同上		
2 学 期	中間	・市民革命 ・19世紀の西欧諸国		同上		
	期末	・帝国主義 ・アフリカ分割 ・第一次世界大戦以後の歴史		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(文系)		地歴	世界史演習	必修選択	2単位	兼平 翔太郎
教科書	山川「詳説 世界史探究」		副教材等	山川「世界史総合テスト」 第一学習社「グローバルワイド」 山川「世界史用語集 改訂版」 山川「一問一答 世界史」		
授業のねらい	歴史事象の理解を基礎にして、学習者自身が考え、意見をまとめ、さらにそれが学習者の主張や行動、生き方にまでつながるような授業を目指していきます。同時に大学受験にも対応できるよう配慮していきます。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は必ず一式持参してください。 ・定期的に課題を課します。 					
評価方法	課題の提出状況、小テストを実施し評価を決定します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・中華帝国と東アジア ・イスラーム世界 オスマン以降 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解 ・歴史的な事象と現代の国際関係とを結びつける視点を養う ・提出物(プリント・課題等) 		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・インド史 ムガル帝国以降 ・東南アジア史 		同上		
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・中央ユーラシア ・東欧の歴史 		同上		
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト、私大対策の問題演習 		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(文系)		地歴	日本史探究	必修選択	4単位	大隈 正平
教科書	山川「詳説 日本史探究」		副教材等	山川「日本史総合テスト」 東進「日本史一問一答完全版 3rd edition」 浜島「新詳日本史」 実教出版「詳述日本史史料集」 山川「日本史用語集」		
授業のねらい	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。					
学習上の留意点	宿題を課します。授業時間内だけでなく、各講習でも授業を進めますので必ず参加して下さい。					
評価方法	1学期は中間考査・期末考査を、2学期は期末考査を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	第3編(続き) 第4編 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望		・学習内容の理解 ・日本における歴史的事象と世界との繋がりについての理解を深める ・提出物(プリント・課題等)		
	期末	第3章 近現代社会の展開 1節 近現代制度の導入と新しい国際関係 2節 近現代制度の導入と新しい国際関係 3節 両大戦間期の日本		同上		
2 学 期		4節 第二次世界大戦と日本 5節 占領と改革 6節 国際社会への復帰と高度経済成長 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本		同上		
	期末	8節 新しい国際秩序と日本の課題		同上		
3 学 期						

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(文系)		地歴	日本史探究	必修選択	4単位	鵜川 大也 倉持 満 島田 世子
教科書	東京書籍「日本史探究」		副教材等	東京書籍「要点マスター 日本史探究 整理と演習」 浜島「新詳日本史」		
授業のねらい	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。					
学習上の留意点	授業内で発表する機会を設けることがあります。 宿題を課すことがありますので、確実に提出して下さい。 授業内で小テストを実施することもありますので、日ごろの家庭学習から意欲的に取り組みましょう。					
評価方法	1学期は中間試験・期末試験を、2学期は期末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	第4編 近現代の地域・日本の世界 第1章 近代社会の幕開け	・学習内容の理解 ・日本における歴史的事象と世界との繋がりについての理解を深める ・提出物(プリント・課題等)			
	期末	第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展開	同上			
2 学 期	中間	第3章 近現代社会の展開(続き)		同上		
	期末	第3章 近現代社会の展開(続き)		同上		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(文系)		地歴	日本史演習	必修選択	2単位	大隈 正平
教科書	山川「詳説 日本史探究」		副教材等	山川「日本史総合テスト」 東進「日本史一問一答完全版 3rd edition」 浜島「新詳日本史」 実教出版「詳述日本史史料集」 山川「日本史用語集」		
授業のねらい	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造と其の変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。					
学習上の留意点	宿題を課します。授業時間内だけでなく、各講習でも授業を進めますので必ず参加して下さい。					
評価方法	課題の提出状況、小テストを実施し評価を決定します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	第3編(続き) 第4編 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望		・学習内容の理解 ・日本における歴史的事象と世界との繋がりについての理解を深める ・提出物(プリント・課題等)		
	期末	第3章 近現代社会の展開 1節 近現代制度の導入と新しい国際関係 2節 近現代制度の導入と新しい国際関係 3節 両大戦間期の日本		同上		
2 学 期		4節 第二次世界大戦と日本 5節 占領と改革 6節 国際社会への復帰と高度経済成長 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本		同上		
	期末	8節 新しい国際秩序と日本の課題		同上		
3 学 期						

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースIクラス		公民	政治・経済	必修	2単位	橋本 優音
教科書	第一学習社「高等学校 政治・経済」		副教材等	浜島書店「最新図説 政経」		
授業のねらい	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。					
学習上の留意点	宿題を課すことがありますので確実に提出して下さい。					
評価方法	1学期は中間試験・期末試験を、2学期は期末試験を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と政治の特質		民主政治の本質を把握しながら政治と私たちとの関わりについて理解する。基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。自由権と社会権の違いと人権保障の背景を理解し、民主主義についても考察する。基本的人権新しい人権について意欲的に理解を深めその本質を把握する。		
	期末	④基本的人権の保障と新しい人権 ⑤国会の組織と機能 ⑥内閣の機構と機能		人権に関する判例を活用しながら、権利と義務などについて理解する。人権を主張する際、時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を深める。国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割や日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。		
2 学 期	中間	⑦裁判所の機能と人権保障 ⑧地方自治制度と住民の権利		司法制度の改革について正確に把握しその上で問題点を含めて考察する。法律の制定過程や裁判のしくみなどを理解する。内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握する。望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。		
	期末	⑨政党政治と選挙 ⑩世論と現代政治の課題		選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。国と地方の関係を地方分権をもとに考察する。マス・メディアがもつ影響力を把握しながら、報道は一つの判断材料であることを理解する。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		公民	政治・経済	必修	2単位	橋本 優音
教科書	第一学習社「高等学校 政治・経済」		副教材等	浜島書店「最新図説 政経」		
授業のねらい	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。					
学習上の留意点	宿題を課すことがありますので確実に提出して下さい。					
評価方法	1学期は中間試験・期末試験を、2学期は期末試験を実施します。 その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と政治の特質		民主政治の本質を把握しながら政治と私たちとの関わりについて理解する。基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。自由権と社会権の違いと人権保障の背景を理解し、民主主義についても考察する。基本的人権新しい人権について意欲的に理解を深めその本質を把握する。		
	期末	④基本的人権の保障と新しい人権 ⑤国会の組織と機能 ⑥内閣の機構と機能		人権に関する判例を活用しながら、権利と義務などについて理解する。人権を主張する際、時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を深める。国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割や日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。		
2 学 期	中間	⑦裁判所の機能と人権保障 ⑧地方自治制度と住民の権利		司法制度の改革について正確に把握しその上で問題点を含めて考察する。法律の制定過程や裁判のしくみなどを理解する。内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握する。望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。		
	期末	⑨政党政治と選挙 ⑩世論と現代政治の課題		選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。国と地方の関係を地方分権をもとに考察する。マス・メディアがもつ影響力を把握しながら、報道は一つの判断材料であることを理解する。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		公民	政治・経済	必修	2単位	倉持 満 折井 千裕 小泉 健 磯部 菜々 橋本 優音
教科書	第一学習社「高等学校 政治・経済」		副教材等	浜島書店「最新図説 政経」		
授業のねらい	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。					
学習上の留意点	宿題を課すことがありますので確実に提出して下さい。					
評価方法	1学期は中間試験・期末試験を、2学期は期末試験を実施します。その他、課題や小テスト、授業の取り組みも加味します。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と政治の特質		民主政治の本質を把握しながら政治と私たちとの関わりについて理解する。基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。自由権と社会権の違いと人権保障の背景を理解し、民主主義についても考察する。基本的人権新しい人権について意欲的に理解を深めその本質を把握する。		
	期末	④基本的人権の保障と新しい人権 ⑤国会の組織と機能 ⑥内閣の機構と機能		人権に関する判例を活用しながら、権利と義務などについて理解する。人権を主張する際、時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を深める。国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割や日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。		
2 学 期	中間	⑦裁判所の機能と人権保障 ⑧地方自治制度と住民の権利		司法制度の改革について正確に把握しその上で問題点を含めて考察する。法律の制定過程や裁判のしくみなどを理解する。内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握する。望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。		
	期末	⑨政党政治と選挙 ⑩世論と現代政治の課題		選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。国と地方の関係を地方分権をもとに考察する。マス・メディアがもつ影響力を把握しながら、報道は一つの判断材料であることを理解する。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(文系)		公民	政治・経済演習	必修	3単位	長原 亮 兼平 翔太郎 柳澤 駿介 小泉 健
教科書	第一学習社「高等学校 政治・経済」		副教材等	浜島書店「最新図説 政経」		
授業のねらい	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。					
学習上の留意点	宿題を課すことがありますので確実に提出して下さい。					
評価方法	宿題を課します。授業時間内だけでなく、自宅学習も合わせた授業展開をしていきます。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	国際法の果たす役割 ①国際社会の変遷 ②国際法の意義		国際法が必要とされるに至った歴史的経緯について、過去の紛争や人権侵害などの具体例をあげて説明している。 ・条約と国内法の関係や、日本の領土をめぐる問題の現状について、さまざまな主張を踏まえたうえで説明している。		
	期末	国際法の果たす役割 ③国際機構の役割 ④国際紛争と軍縮への取り組み		勢力均衡と集団安全保障について十分理解している。 国際連合の組織と役割、そのしくみについて十分理解している。 国際連合は果たすべき役割について、今日の国際情勢の変化を踏まえて具体例をあげながら、自分の考えを十分に説明している。		
2 学 期	中間	国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ①日本の安全保障と国際貢献 ②日本の国際貢献のあり方		日本国憲法の平和主義と防衛政策との関連について、十分に理解している。 日本の安全保障について、国際情勢と関連させて十分に理解している。 国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
	期末	⑨政党政治と選挙 ⑩世論と現代政治の課題		選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。国と地方の関係を地方分権をもとに考察する。マス・メディアがもつ影響力を把握しながら、報道は一つの判断材料であることを理解する。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		地歴	地歴探究	選択	2単位	柳澤 駿介
教科書			副教材等			
授業のねらい	「地理」「歴史」をテーマに自分自身で教養を深めていきます。深掘したテーマをプレゼンテーションしてもらいます。					
学習上の留意点	「地理総合・歴史総合・日本史探究・世界史探究」ではなかなか取り上げられない内容や、簡潔に終わってしまうテーマについて深掘します。生徒自身がテーマを選定し、プレゼンテーションすることも実施します。					
評価方法	レポート、プレゼンテーション資料および発表、平常点で評価する。□					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	自身のテーマを選定していきます。 テーマについて調べていきます。		・学習内容の理解 ・地理的・歴史的事象に対する意見		
	期末	プレゼンテーションの準備を行います。 互いの発表を通して、地理的・歴史的事象について深めます。		知的な好奇心を高めていきます。		
2 学 期	中間	自身のテーマを選定していきます。 テーマについて調べていきます。		・学習内容の理解 ・地理的・歴史的事象に対する意見		
	期末	プレゼンテーションの準備を行います。 互いの発表を通して、地理的・歴史的事象について深めます。		知的な好奇心を高めていきます。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		公民	公民探究	選択	2単位	倉持 満
教科書			副教材等			
授業のねらい	有権者として社会の中で生きていくために様々な分野に目を向けていきます。日本社会を構築していく重要な若者であるという自覚を芽生えさせることが狙いです。					
学習上の留意点	必修科目「公共」「政治経済」ではなかなか取り上げられない内容や、簡潔に終わってしまうテーマについて深掘します。生徒自身がテーマを選定し、プレゼンテーションすることも実施します。					
評価方法	レポート、プレゼンテーション資料および発表、平常点で評価する。□					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	自身のテーマを選定していきます。 テーマについて調べていきます。		・学習内容の理解 ・世界の政治・経済に対する意見		
	期末	プレゼンテーションの準備を行います。 互いの発表を通して、公民的な内容について深めます。		知的な好奇心を高めていきます。		
2 学 期	中間	自身のテーマを選定していきます。 テーマについて調べていきます。		・学習内容の理解 ・世界の政治・経済に対する意見		
	期末	プレゼンテーションの準備を行います。 互いの発表を通して、公民的な事象について深めます。		知的な好奇心を高めていきます。		
3 学 期	学年末					